

○事業所名	児童発達支援センターまな星		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	320	(回答者数) 303
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的な発達検査と療育を通してのアセスメントを行い、それをグループで共有して対応しているため、個々の課題となる ところ、練習していきたいポイントを明確化した関わりが行 える。	療育前にグループスタッフ全員で課題の選定をし、流れにつ いて確認すると同時に想定されるこどもの行動について共有 している。 療育後にカンファレンスを行い、活動時のこどもの様子や反 応、行動、支援者の関わり、課題について共有している。	検査や診察時の子どもの様子把握に努め、個々のこどもへの 理解を深める。 グループスタッフ間での見立ての共有を丁寧に行う。
2	各学年ごとに作成した指導計画を軸に、グループや個々の様 子に合わせてねらいや活動内容を検討しながら柔軟に課題設 定している。必要な時には個別のサポートや対応を検討し実 施している。	課題の設定は、こどもたちが少しがんばって取り組んだり、 苦手だけどチャレンジしたらできたという経験が積めるとこ ろをねらって実施している。	苦手な場面や課題における個々のこどもの行動を肯定的に捉 え、参加の仕方の提案をしたり取り組むためのきっかけを示 したりする。スタッフがいろいろな方法を試行する中で気持 ちを変える練習を積んでいけるようにする。
3	保護者との振り返りの時間を通して、その日のこどもの様子 や行動を共有しながら、こどもの特性に気付いたり、関わり について学んだりする機会を提供できる。	具体的な場面やこどもの行動を分かりやすく説明すること で、「できた・できない」ではなく、その課題にどう取り組 んでいたかに目を向けることが大切であることを繰り返し知 らせるとともに、小さな変化を共有するようにしている。	保護者の理解を急かすことなく、スタッフは分かりやすく伝 えること、こどもの特性理解に繋げることを意識し、日ごと から保護者のお話に耳を傾けるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修や保護者会等の開催、保護者同士の交流の機会が限られ ている。家族支援に関しては、療育後の振り返りや個別懇談 等の取り組みが中心となっている。	当クリニックで行っている研修や、外部の研修についての案 内は随時行っているが、保護者のニーズに必ずしもあってい ない場合がある。ニーズの把握ができていない面がある。 保護者同士の交流を希望しないというご意見がある。	当事業所で実現可能なことを検討し、実施に向けて具体的な 計画をする。
2	情報発信について、掲示板で避難訓練の状況をお知らせする ようしたが周知には至らなかった。周知という点におい て、様々な項目について改善の必要があると考える。	保護者同伴の事業所であるため、日々の支援に係る説明や周 知は図られている一方で、非常時対応等については口頭や掲 示のみになっている。	令和8年度は、事業所から通信発行を行う。 非常時等のマニュアルについて、保護者が閲覧できるものを 準備する。 掲示板のさらなる活用を検討する。